

キッズ・モニターアンケートの概要 「地産地消と食育について」

アンケートの実施結果は以下のとおりでした。
キッズ・モニターのみなさん、ご協力ありがとうございました。

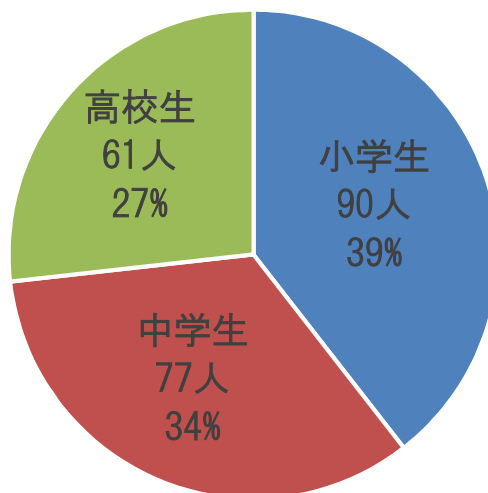
概要

- 1 実施期間 令和2年10月26日～11月14日
- 2 回答者数 228人（対象モニター数：546人）
- 3 回答率 41%
- 4 実施方法 インターネットによるモニター調査
- 5 作成担当課 農林水産部 フードイノベーション課

アンケート結果概要

Q1 あなたの年代について【1つ選ぶ】

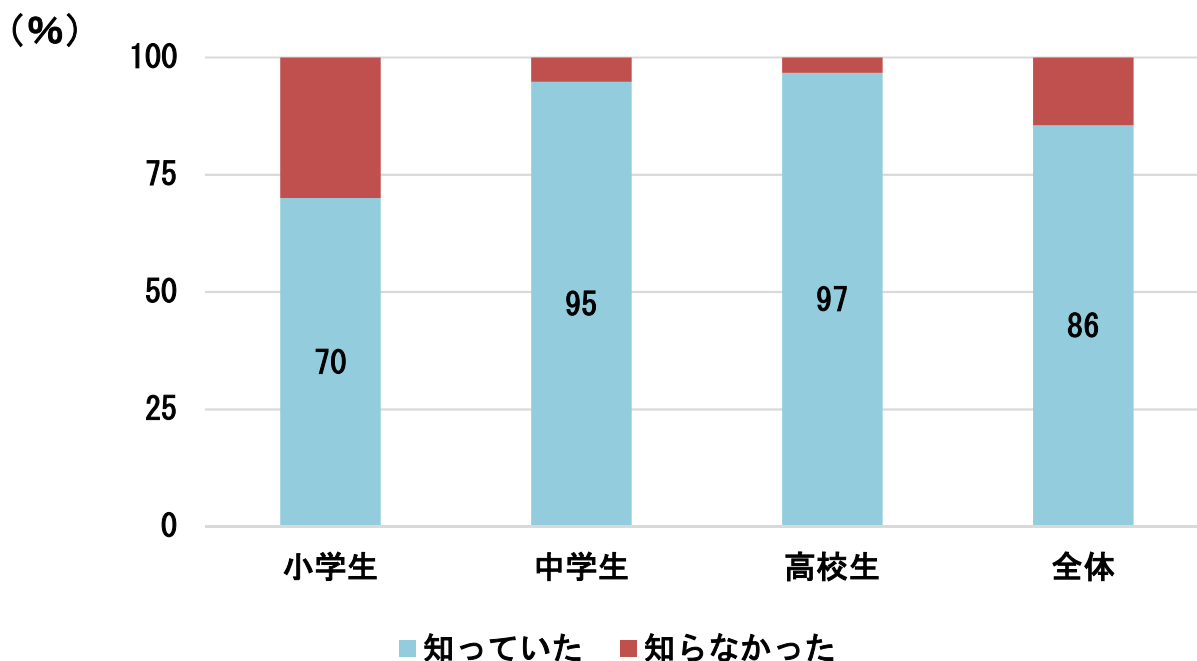
あなたの年代はどれですか。



Q2 「地産地消」(ちさんちしょう)という言葉について【1つ選ぶ】

「地産地消」(ちさんちしょう)とは、「地域で生産されたものをその地域で消費すること」です。

あなたは、「地産地消」(ちさんちしょう)という言葉を知っていましたか、「知りませんでした」か。



小学生のモニターは、70%が知っており、中学生や高校生のモニターは、90%以上が知っていました。

Q3 「地産地消」のメリット（よいこと）【いくつでも】

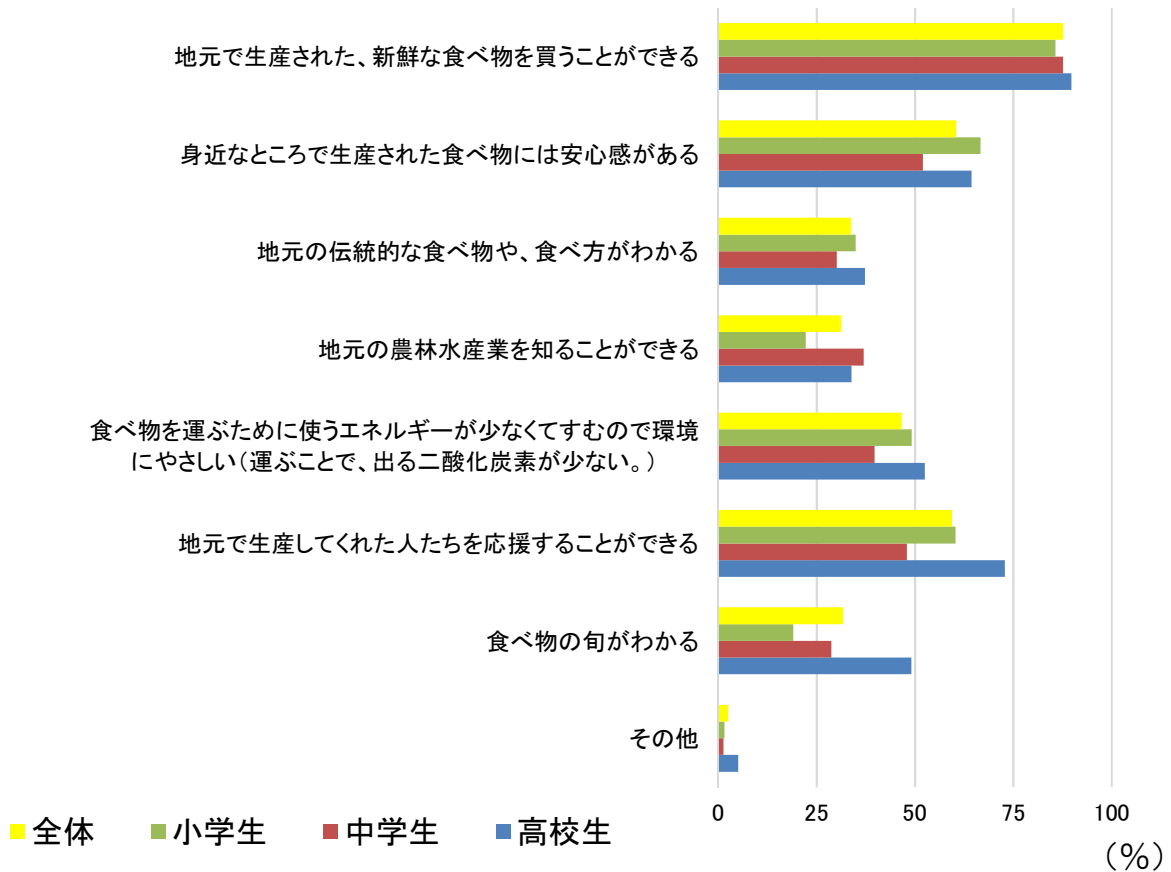
Q2で「地産地消」という言葉を知っていた方に「地産地消のメリット（よいこと）について」お聞きします。

「地産地消」（地域で生産されたものを、その地域で消費すること）は、みなさんや、みなさんの住んでいる地域、さらには地球にも優しい取組といわれています。

あなたが、「地産地消」について思うメリット（いいこと）をえらんでください。

- 1 地元で生産された、新鮮（しんせん）な食べ物を買うことができる。
- 2 身近なところで生産された、食べ物には安心感がある。
- 3 地元の伝統的（でんとうてき）な食べ物や、食べ方がわかる。
- 4 地元の農林水産業を知ることができる。
- 5 食べ物の運ぶため使うエネルギーが少なくすむので環境（かんきょう）にやさしい（運ぶことで、出る二酸化炭素（にさんかたんそ）が少ない。）。
- 6 地元で生産してくれた人たちを応援（おうえん）することができる
- 7 食べ物の匂（しゅん）がわかる
- 8 その他（自由記載）

年代ごとで、「メリット」を選んだモニターの割合（%）



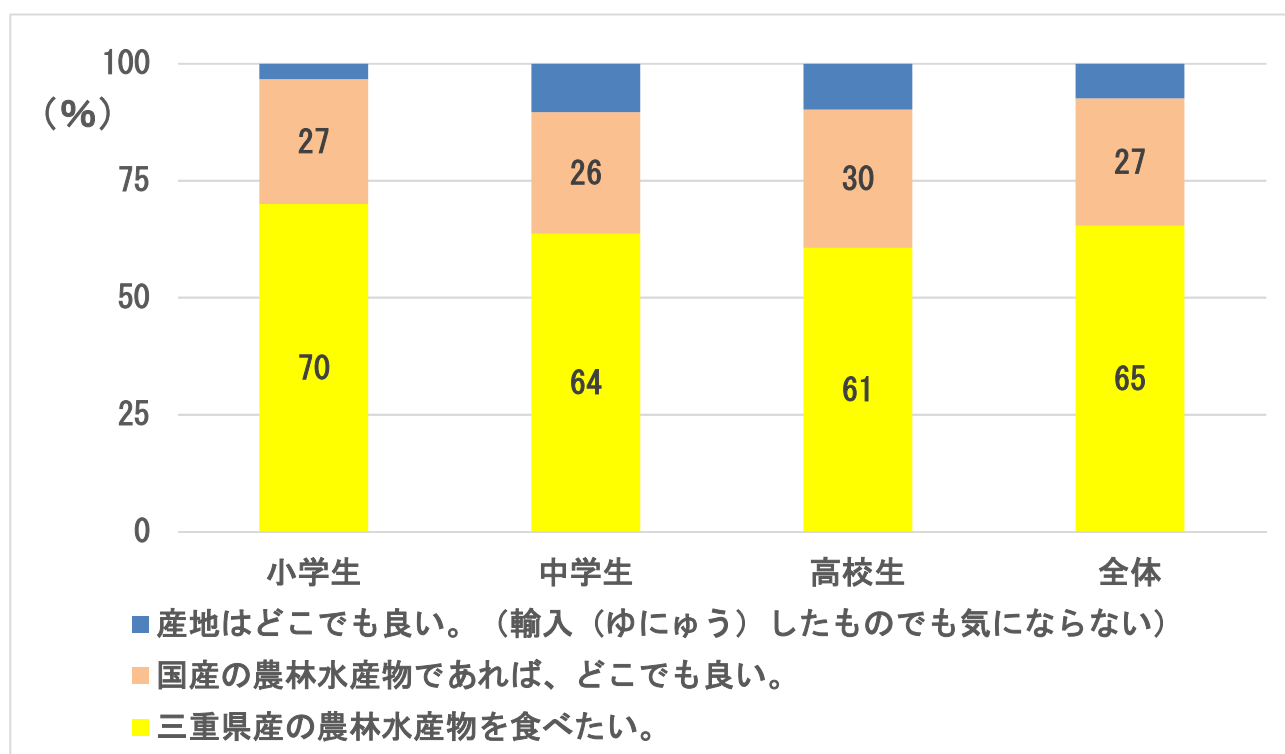
地産地消のメリットについては、「新鮮な食べ物を買うことができる」や「身近で安心」、「地元の生産者の応援」を選択しているモニターが多かった一方で、「食べ物の旬がわかる」や「地元の農林水産業を知ることができる」を選択しているモニターは少なかったです。

年代ごとで見ても、ほぼ同様の傾向を示すことが分かったが、「食べ物の旬（しゅん）がわかる」については、高校生の選択する割合が他の年代よりも高い傾向となった（高校生は小学生の 約2.6倍、 中学生の 1.9倍）。

その他の回答としては、「家族が作っているのだから」や「体にいい」、「コロナ禍でスーパーに行くより近くで必要な野菜だけ買うのが良いと母がよく言っている」、「次世代にその野菜を伝えられる」、「輸入の時間が短いから新鮮」といったものがありました。

Q4 「三重県産の農林水産物（お米、野菜、お肉、卵（たまご）、キノコ、魚など）」を食べることについて【1つ選ぶ】

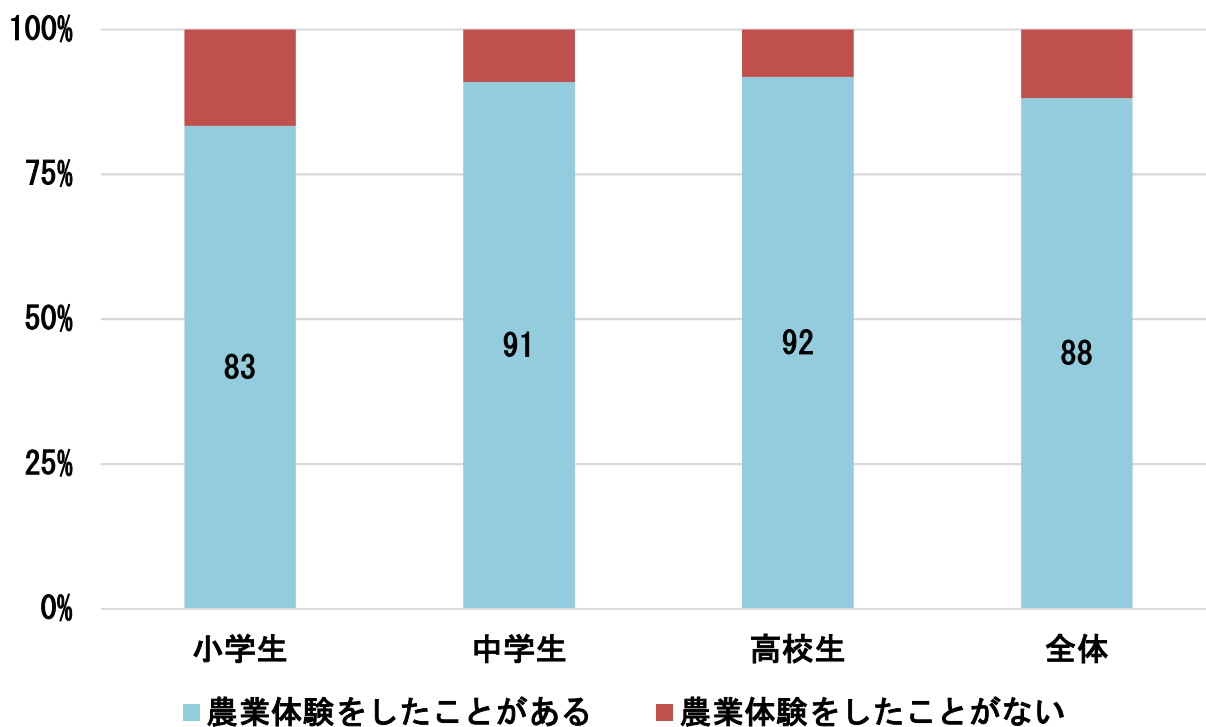
学校給食では、地元産の食べ物を知る機会として「みえ地物一番給食の日」に取り組んでいますが、みなさんは、地元産の農林水産物を使った食事を食べたいですか。



農林水産物の産地については、各年代で、「三重県産の農林水産物を食べたい。」を選んでもくれた方が、一番多くなりました。しかしながら、年代が進むにつれて、その割合は減少しました。

Q5：あなたは、学校の授業で「農業体験」をしたことがありますか。

あなたは、学校の授業で「農業体験」をしたことがありますか（学校でサツマイモやきゅうりなどの野菜を育てたり、お米を作ることも含めます）。



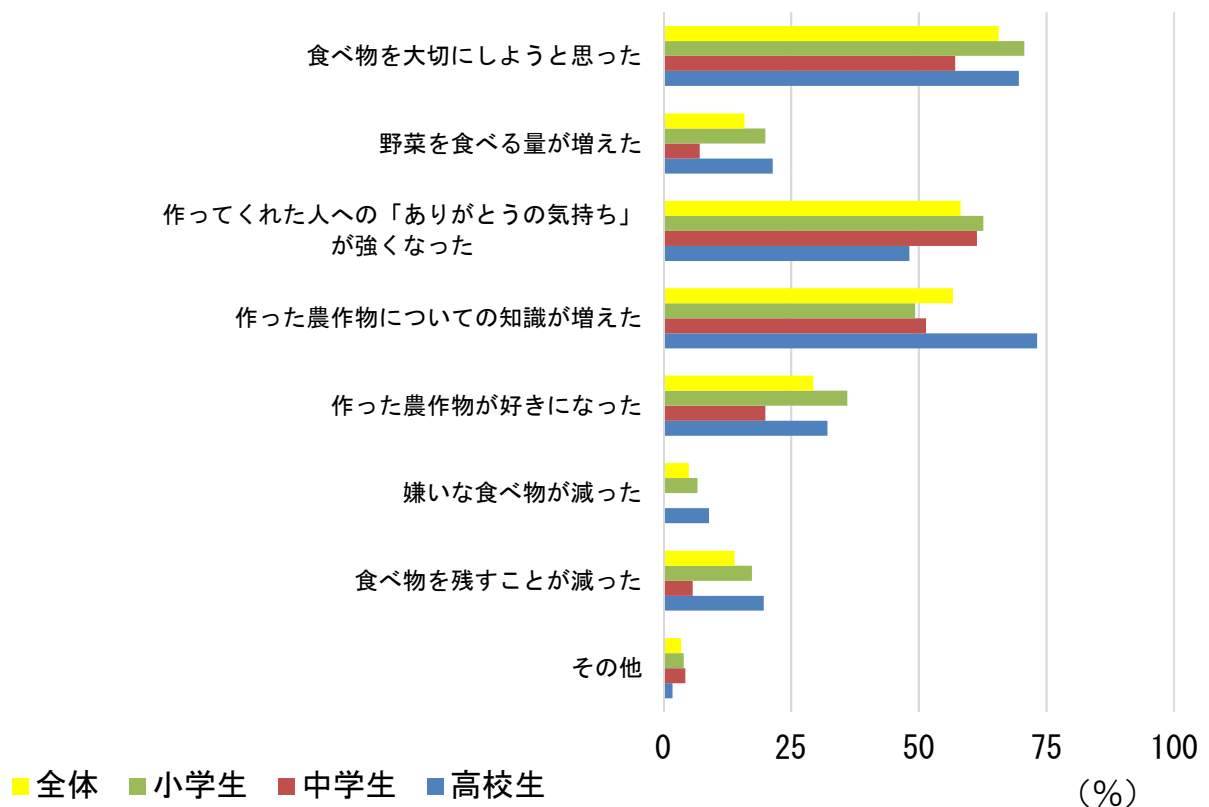
農業体験については、90%近くの方が、学校の授業で体験されていることがわかりました。

Q6 Q5で「ある」と答えた方にお聞きします。

農業体験をすると、次の1～7のような「いいこと」があるとされています。あなたにはどんな「いいこと」がありましたか。

- 1 食べ物を大切にしようと思った。
- 2 野菜を食べる量が増えた（ふえた）。
- 3 作ってくれた人への「ありがとうの気持ち」が強くなった。
- 4 作った農産物についての知識が増えた。
- 5 作った農産物が好きになった。
- 6 嫌いな食べ物が減った（へった）。
- 7 食べ物を残すことが減った。
- 8 その他（自由記載）

各年代ごとに、各「いいこと」を選んだモニターの割合（%）



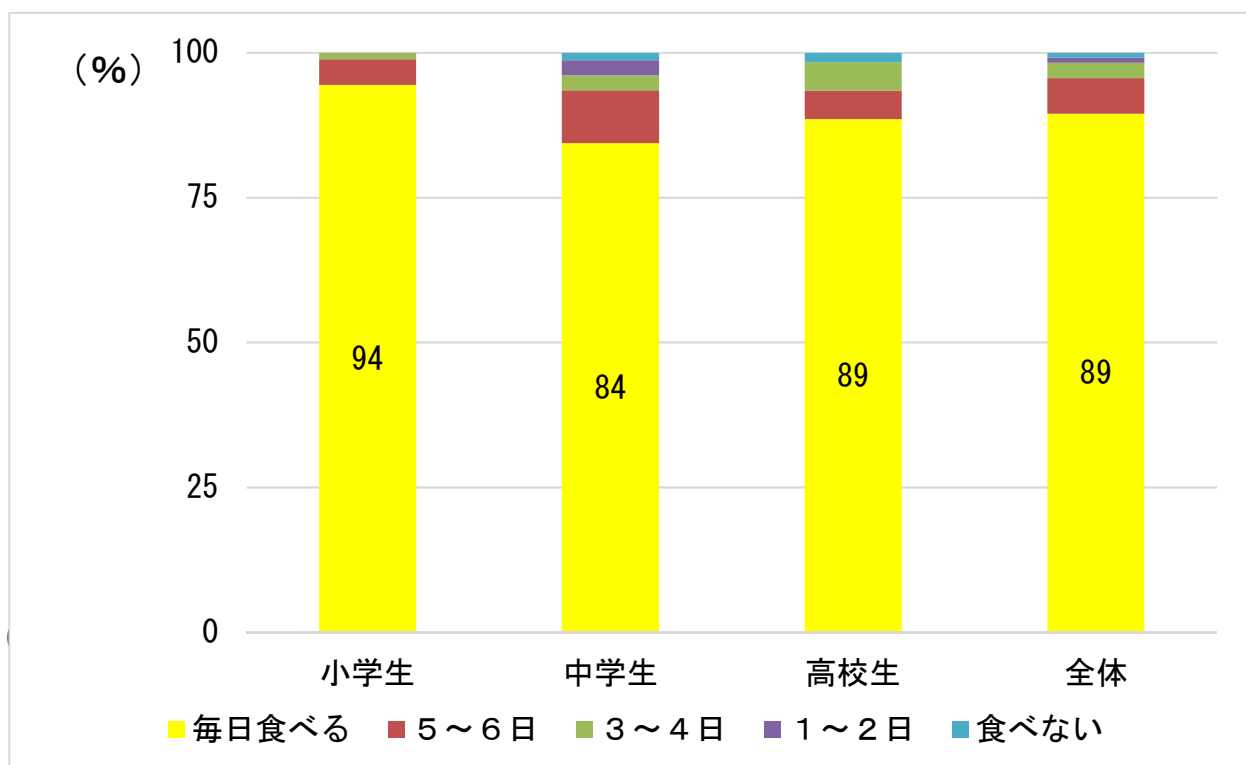
農業体験の「いいこと」については、各年代において「食べ物を大切にしようと思った。」や「作ってくれた人への「ありがとうの気持ち」が強くなった。」、「作った農産物についての知識が増えた」を選んだモニターが、おおむね半数以上となったものの、「嫌いな食べ物が減った」や「食べ物を残すことが減った。」、「野菜を食べる量が増えた」を選んだモニターは少なかったです。

その他の回答としては、「作った野菜が好きになった。」や「自分がみんなと協力して育てた物は他のものより美味しく感じるからそれが楽しい。」、「育てるのが楽しいなと思った。」、「農業に興味があった。」、「生きていく力につながるからもっと学びたいと思った」といった意見があった一方で、「特にない」、「もともと感じているから変化はない」といったものもありました。

Q7 毎日の朝食について【1つえらぶ】

あなたは、1週間におおよそ何日朝食を食べていますか。

- 1 毎日（7日）
- 2 5～6日
- 3 3～4日
- 4 1～2日
- 5 朝食は食べない（0日）



小学生の年代は、毎日朝食を食べる割合が90%を超えるものの、中学生以上では90%を下回りました。

Q 8 朝食を食べない理由について【いくつでも】。

Q 7で、食べない日があると答えたあなたに聞きます。あなたが朝食を食べない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

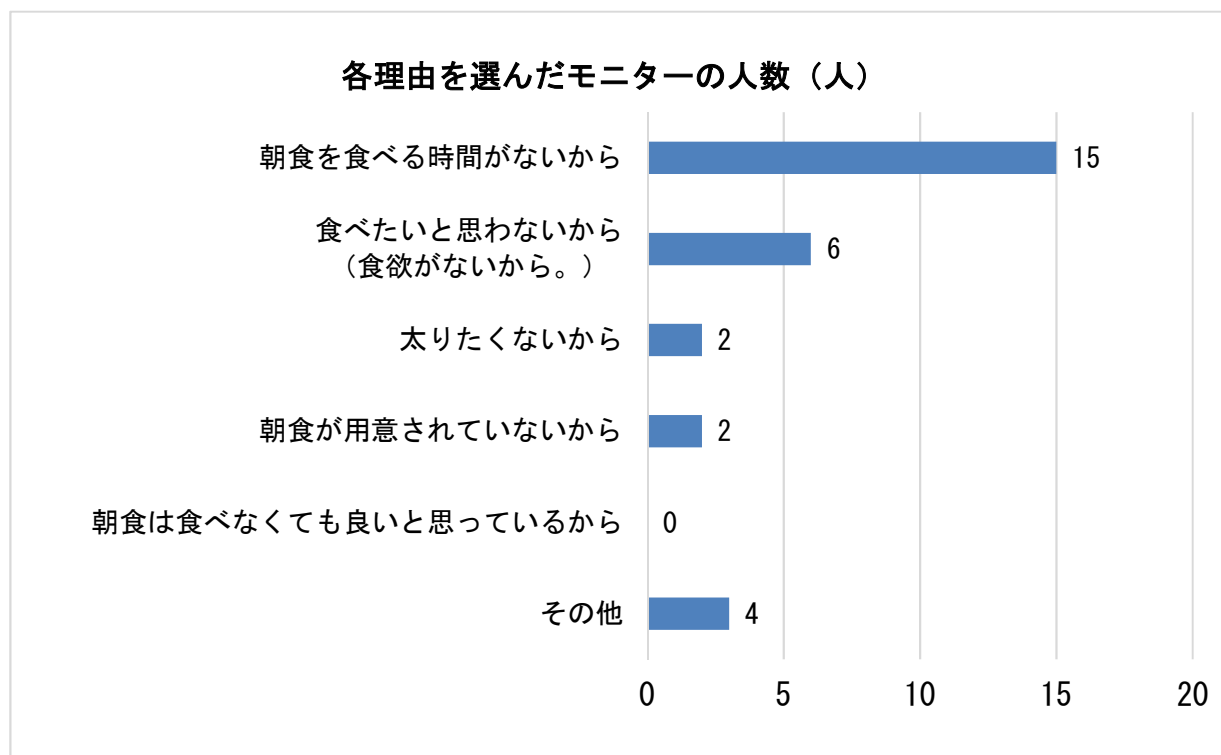
- 1 朝食を食べる時間が無いから。
- 2 食べたいと思わないから。
(食欲がないから、気が向かないから。)
- 3 太りたくないから。
- 4 朝食が用意されていないから。
- 5 朝食は食べなくても良いと思っているから。
- 6 その他

食べない日があると答えたモニターの数 24人(全体の11%)

小学生： 5人(小学生の6%)

中学生： 12人(中学生の16%)

高校生： 7人(高校生の11%)

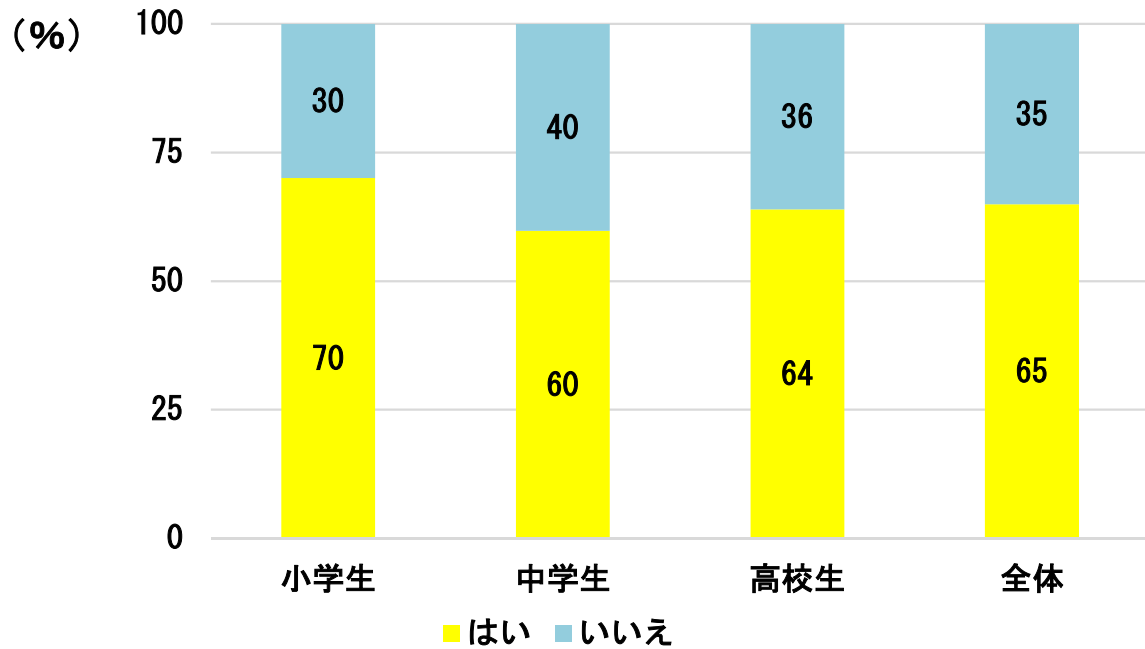


朝食を食べない理由として一番多かったのは、「朝食を食べる時間が無いから。」で、24人の内、15人が選択しました(63%)。

その他の回答としては、「休日は、朝起きる時間が遅いから」でした。

Q9 自分だけで料理（お菓子作り含む）を作ることができますか。【1つえらぶ】。

はい
いいえ



自分だけで料理を作ることができるという回答したモニターは、小学生の年代が最も高い結果となりました。

Q10 作ることができる料理【3つまで書く】

Q9で、「はい」と答えたあなたにお聞きします。作ることができる料理を3つまで書いてください（1つでもかまいません。）。

各年代ごとの、1位～3位の状況

小学生	1位 卵焼き	29人
	2位 ホットケーキ（パンケーキ含む）	12人
	3位 野菜いため	11人
中学生	1位 卵焼き	12人
	2位 カレー	9人
	3位 オムライス	6人
高校生	1位 卵焼き	17人
	2位 カレー	9人
	3位 チャーハン	8人

Q9で、自分だけで料理ができると答えた方にどういった料理を作ることができるのかお聞きしたところ、各学年で、卵焼きが1位となりました。